

平成27年度安城市総合計画審議会第2分科会議事要旨

日時 平成27年8月19日（水）午後2時30分から3時30分

場所 安城市役所 第10会議室

出席者 【総合計画審議会委員】

石川愛子委員、奥野信宏委員、神谷金衛委員、神谷啓介委員、島田智佐子委員、中根敬子委員、日比野繁喜委員、矢羽々みどり委員

【事務局】

副市長、教育長、企画部長、行革政策監、企画政策課長、関係部長・次長、企画政策課、総合計画専門員、委託業者

1 議題

(1) 基本計画（案）について

【座長】

第2分科会に入ります。よろしくお願いいたします。

第2分科会は、行財政運営について、ということになっております。先ほど包括的にかなりご議論をいただいておりますが、端から見ておりますと愛知県の中では安城市は、行政的にも恵まれておりますいろいろな事業ができる状況でございます。将来的にも、先ほどもございましたように、2040年、50年、人口が増えるなんて予想している所というのは、そうそうあるわけではございません。そういう意味では大変恵まれているのだらうと思います。

しかしながら、他方で行政については、よりよいサービスを、より低い住民負担で提供していくということを徹底していくということは非常に、市民のためにも必要なことだというふうに思っているわけございまして、その辺の視点からいろいろご議論いただければというふうに思っているわけでございます。

それでは、皆さんから意見いただく前に、市の方で、意見を出すきっかけになるようなものがあれば説明お願いできませんか。

【事務局】

（事務局説明）

【座長】

ありがとうございました。これは大変簡単な項目でございますけれども、先ほどの話等々にどうしても関わってくると思いますので、幾分幅広にご発言、ご議論していただければ結構かなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。どなたからで

も結構です。

国の方で、民間活力の推進というような場面で言わなきゃいけない立場にあって言っているのですが、PFI、PPPの活用、そういったことはどこかに、どこか別な所に入っているのかもしれないけれども、行財政運営の所でもどこかに入っているといいと思います。

安城市はこの辺については十分なご理解があるということは、重々承知しておりますし、今度の図書館の建設等もまさにその大変大きな事業でありまして、十分承知しておりますけれども、何かそういう、民間活力を利用していく、そういったことがどこか一言入ってきてもいいのではないかなというふうな気もしております。

それから、安城の場合はまだ人口が増えていて、あまり公的財産が、例えば小学校が余っているような状況にはないのだろうというふうに思いますので、全国の状況とちょっと違いますが、今、全国的に特に国なんかが進めているのは、公的資産の民間による活用ということです。これも大きな行財政運営のひとつのポイントだと思います。特に、公的施設を役場あるいは庁舎等々の建物がいろいろな効率化で余ったとか、いらなくなったとか、あるいは学校が廃校になったとか、そういうところをどういうふうに民間に使ってもらうか。

それから、道路の利用。これも大変大きいですね。いきなり東京の話になって恐縮ですが、東京の新宿など、道路というのは非常にほかのことに使いにくいです。歩道であり人が通ってなくても、そこにいすとテーブルを並べてカフェ開くとなると、県警本部や愛知県が黙ってはいないということになるわけでありましてけれども、それをやろうじゃないかという話です。いろんな使い方ができるようになった。新宿なんかではそれをやり始めて、あの辺の歌舞伎町の辺りなんていうのは、前は自動車や自転車が駐車されていたが、それが取り除かれて、そこにコーヒー用のテーブルやいすが置かれて、非常にまちの雰囲気が変わってくるとかです。

それから、ちょっと話が長くなって恐縮ですが、札幌の地下歩行空間というのがございます。札幌には駅から“すすきの”の方に向けて、もともと“すすきの”が中心地なのですが、札幌駅周辺が整備されまして、百貨店もできました。人が“すすきの”に流れなくなった。地下歩行空間、約700メートル、800メートル通されました。あれは、市道ですが、広場という定義されて、真ん中の8メートルは人が行き来するのに使う、両側4メートルはイベント区間として使う。中の交差点、広がっている所には舞台なんか地下に設けて、使う。つまり、道路じゃなくて広場みたいになっているわけですね。だから、テーブルを置いたりしていろいろな使い方をされている。やったとたん北海道随一の場所になりました。

私も名古屋で、久屋大通なんか、何だかんだいろいろな議論があるものだから、広小路とかです。あれも条例で、道路をやめて、広場と定義してしまう。広場の中に車を走らせてあげているというふうに定義すればね、あそこの歩道にテーブルを置くことは別に問題ないわけです。カネは払わなきゃいかん。というふうなことを言ってい

るのでありますが、道路空間というのが広いので、そういったことの利活用。これも全国的に大都市圏では非常に大きな問題になってくるわけです。

おそらく安城市などでもいずれ、人口が増えていくとすると、まちづくりにいいのではないかという議論が出てくるのだらうと思います。

それからもう1つは、いろいろな公的サービスの供給を、行政ではなくて市民団体、NPOが財政的に自立して供給していく。これが非常に大きく増えてきています。ソーシャルビジネス等と言っていますが、これの推進を国の共助社会づくり懇では、それを推進するということをやっているわけであります。ものすごい勢いで増えていきます。若い女性が地方の市役所なんかで立派な仕事してらっしゃる方が、突然辞められて自分でソーシャルビジネスを立ち上げて、いろいろな活動が行われています。防災・減災の方、国土の強靱化の議論をやっておりますが、そこでも市民が財政的に自立してそうしたことに貢献する活動。これは随分増えているというふうに感じております。そういう意味で、これはまた別な所に共助社会という名前で市民参加とか別なセクションがありますけれど、そういったことも行財政運営には非常に大きく関係してくるのだらうというふうに思っております。その辺も視野に入れていただいていいかなというふうに思います。

【島田委員】

いろいろ先ほどから聞かせていただいています、これが本当に実現したらすごいなというような感じで聞いていました。難しいこととか私には分からないことがたくさんあって、あまり発言ができないのですが、ぜひこういった活動で、私たちがいつも思っている、賃貸に住んでいると持ち家がほしくても土地が高いとか、そういう普通に思っている問題とか抱えている悩みがこういう議題に上がっていたので、ぜひそういうところを改善していただきたいと思っております。以上です。

【座長】

ありがとうございました。他いかがでしょうか。

【神谷（啓）委員】

この間ちょっと思ったところで、今日のお話、関連も含めて、いろいろ資料があるのですが、ちょっと分かりにくい部分もありまして、中には「推進する」とか「促進する」とかそういった言葉が多くて、実際には何も変わらないのではないかなというような感じがするのですが、どうなのかなという。これは全体的なことでは思ったことなのですが。

【座長】

そのところちょっとお答えいただけますか。推進するというのは、どの程度、成

果に結び付いていくのか。その辺、どういうふうはこの計画ではお考えか。もっと具体的な話になっていくとK P Iといいますか、いろいろな指標を作ってそれを目指す。その辺のところでも市の方で何かお答えいただけますか。

【企画政策課長】

総合計画は少し大きな立場でものを語っており、こういった表現が出ております。先ほどもありました、毎年3年間のローリングで、この下に実施計画というものがぶら下がっておりまして、まさに今、私もその集約作業をやっておるところでございます。それに基づきまして個別の事業が出てまいります。それに、先ほどありました財政的な裏付けも取りながら、取捨選択して、優先度、これに書いてあるから、ここに位置づけてあるから優先していくというような使われ方をこれ自体がされていくという、そういうご理解でいただければと思います。

【座長】

よろしゅうございましょうか。段階的になっているということでございます。ありがとうございました。

【石川委員】

先ほどは、皆さんすごくご熱心にご議論されていて、私も、今までこういったことを携わることがなかったので、すごく分かりやすかったですし、結構身近な意見も多かったです。私としては小中学生の子がいるということで、その世代の子たちに安城のよさを知ってもらって、住み続けてもらいたいという、そういう狙いがあります。先ほど団塊ジュニアですか、私はまさにその年に生まれた、その世代すごく多い、先ほどおっしゃっていたのですが、子どもたちやもっと若い世代に負担をかけないように、何とか健康で生きたいなと思います。

【座長】

ありがとうございました。どうぞ。ほかにございましたら。

【日比野委員】

私も団塊の世代、ちょっと前行っておるんですけども、例えば年金生活をやっていきますと、介護保険料が上がるとか、だんだんと厚生年金が減ってきたということでマイナス要素が多くて、たぶん子育ての方も大変だ、出費が出てくると思うのですが、財政的にですね、はっきり言って年金は全然これからは増えないよとか、例えば8年の間は高齢者に負担を、例えば介護保険料は上げなくてもちゃんとできるような方策を何か取っていくとか、それから、今言った子育ての方は3人目からは無料化とか、2人目くらいからはやろうじゃないかと、何でも結構ですけども、何かそういう具

体的な、市民なり、実際困っているそういう方の分かるビジョンと言いますか、計画的なものが立てられないか。

先ほど、品質マネジメントシステム、ISO9001とおっしゃってみえたのですが、しっかりとチェックされておられると思うのですが、やはりその運用が大事であって、9001取ったからいいということじゃないと思うのです。だからその辺、運用なり中味の問題であるので、具体的にあまり分からないですよね。例えば、企業であれば、電子化の所であれば、それで人員を5人減らすとか10人減らすとか、具体的に数字が長期計画では出てくるわけなのですけれども、それからまた、市民へのサービスがこれだけ増えるということが結構あるとは思っているのですが、マイナ番号制度、具体的にどういうふうになるかちょっと分からないですけど、そういう時代が変わっていくよということは分かるのですが、どういう恩恵を受けられそうだとか、その辺の、具体的さ。例の図書館とかそういうところで少し具体的に、ICTの環境ができていると思うのですが、少しその辺お話いただいて、一般の、将来に左下がりになる、例えば高齢者の年金カットとか年金のアップというのはないよとか、それから、今ありましたように子育てはより安くなって、例えば3人目からとわずに2人目から直ちにとか、そうすれば分かりやすいと思う。

【座長】

それでは、市の方でご回答を。高齢者の生活負担増、予想される。それに対する対応。あるいは、現在の施策。それから、子どもが増えたときの費用、子育て費用に対する現在と施策のお考え方。そういったことについてご説明いただけますか。お願いします。

【福祉部次長】

具体的に介護保険料という言葉がございましたので、その点についてまずご説明させていただきたいと思います。民生費の方はどんどん増えておりまして、ここ30年間で1.5倍くらいの予算規模になっております。その間、安城市で見ますと人口も1.5倍になりましたので、何とか支えられるという状況でまいりました。ただ、この先、国が2025年というのをよく言っておりますが、団塊の世代の方が後期高齢に入られますと、医療、介護の依存度が急に増えてまいります。そうすると非常に財政的に厳しくなりまして、介護保険は保険でやるというふうになっておりますので、ますます保険料が上がるということになります。

ただ、マイナスの「上がりますよ」というのを書いてないのですけれども、書かなかった理由といたしましては、今、地域包括ケアをやろうとしております。自助が一番基本ですね。次に、地域で見守り合いましょう。ただ、地域で見守るといいましても、薄れてきた地域のコミュニティが急に復活できるわけではないものですから、地域で明かりがついた消えたくらいの見守りをさせていただいて、地域の負担にならない

ように、介護、医療、福祉の専門職が支えていくという体制を今作ろうとしております。そういったことをやっていきますと、行政が税金で全部やるのではなくて、そういった地域の力も使って何とかやっけていこうというのが、介護保険の今の考え方です。何とか介護保険料は、極端に2万円、3万円というような上がり方をしないように、少しでも地域包括ケアを充実させて、何とか抑えていきたいという施策を今、取り始めております。

【座長】

ありがとうございました。子育ての方、どなたかお願いできませんか。お願いします。

【子育て健康部長】

特に、子育ての関係、特に費用的な面でしょうか。

【座長】

現在の子育てについての支援の状況のご説明。それから、将来についてはどういふふうに市としてはお考えになってらっしゃるか。その辺のところの概略をご説明いただけませんか。

【子育て健康部長】

安城市でも子育て支援、保育園など、いろいろ取り組んでおりますけれども、目下の課題としては、人口ビジョンの中でも特に年少人口というのは若干減っていく程度でありますけれども、それに反するような形で、特に低年齢児の子どもさんの保育園の入所というのが毎年のように増えてきております。それに対する施設の整備に限らず、特に保育士さんですね、正規の職員に限らず、臨時保育士さんも含めて、保育士の確保というのが非常に大きな問題になっております。ただ、どこかでそういった低年齢児の保育の需要というの、どこかでピークを迎えて、あとはやはり徐々に減っていくのではないかというふうに思いますので、その辺りの見極めというのが非常に難しいなあということを感じながらも、ただ、当面は低年齢児の保育、待機児童を出さないように努力をしていきたいというところでございます。

【副市長】

冒頭挨拶したきりですので、少しお話をさせていただこうと思います。安城市の少子化対策の現状という意味合いでは、例えば今後、小中学生、0歳から今だと中学生の入院・通院、病気になった折の無償化というのをやっております。さらに高校生の入院の無料化というようなことまで取り組んできております。

それから、先ほど子育て健康部長が申しておりましたとおり、待機児童が0だと。

これは綱渡りの状況でございますけれども、そういったことをやっています。それから、児童クラブ、学童保育の関係でも、過疎の所とは違って空き教室がなく、非常に苦勞はしておりますが、郊外に土地を取得して児童クラブを作るといような踏み込んだことを少し前まではやってまいりました。今後、市長の4期目のマニフェストの中では、もうすでに打ち出していて、言葉として、いつやるか、だけになっている中では、学校給食、これは幼稚園・保育園も含めてですけど、第3子の無料化という格好で打ち出しもしております。そういう意味合いでは、子育ての環境ではかなり踏み込んだ施策を安城市では全国的にもやっているのだと思っております。しかしながら、2.07という合計特殊出生率を上げるための一つの、ある意味言い方は不適切かもしれないですけど、皆さん方の人生観、子どもたちを育てることによって、子どもの交流だとかいろんな中で自分を高めると、そういったような形の人生観に生き方を変えていただかないと、なかなか子どもを育てるのが負担だ負担だという状況では、少子化対策は進まないと思っておりますし、私は先日、増田寛也さんの講演会、名古屋銀行協会の主催の講演会に出席したのですが、増田先生いわく少子化をなくするためには第3子に対して、それはいっぺんじゃないけれどもという表現でしたけれども、1人当たり2,000万くらい出さないと、第3子を産もうとはならないのではないかと、なんていような見解を示されておりましたけれども、いろいろな示唆がございました。市としても一生懸命やってまいりますけれども、最後は人生観だなと思っております。

それから、私どもの安城市は財政的には豊か、全国で10本の指に入るといようなことにはなっているのですが、実際問題として、今回この行財政の運営の中でも、県下でも人口1人当たりですと2番目に職員が少ないといようなこと等々含めて、いろいろ経費の削減等々は一生懸命やっています。財政が豊かにしてもあれもこれも、市民ニーズが高いからといってすべてやれるといような財政状況にはない。そこら辺は皆さん方、十分ご理解いただきまして、優先度の高い事業から順番にやらしていただきたい。そんな思いでおります。

【座長】

ありがとうございました。今、政府の方で大都市圏戦略検討委員会というのがありまして、私、委員長をしているのですが、もうすぐ発表されますけど、今最後の文言を調整しています。東京・名古屋・大阪であります。東京は突出していて、名古屋・大阪も大変個性が強くて、共通の方向性を見つけるのは難しいのですが、その中で4つに私、まとめ整理しました。1つは、さっきの話でグローバルにビジネス展開ができるまちを作る。それから2番目に、高齢者に優しく、子どもが生まれるまちを作る。3番目に、環境に優しくて、歴史・文化が感じられるまちを作る。4番目は、安産・安心なまちであります。

2番目の、高齢者に優しく、子どもが生まれるまちという表現にしました。子育て

支援という表現ですと、いろいろな批判がございまして、これは行政の人を批判するわけじゃないのだけど、あれもいいのではないかと、これもいいのではないかと意見が出てくるのは、一応の子育て支援的な施策をされるけれども、それが、子どもが生まれることに結び付いているかどうか。その検証がされてない、という批判がこれは非常に強くあります。

育児休暇の問題なども、これも批判が強く出ていましたのですけれど、育児休暇が本当に子どもが生まれることに結び付いているか。むしろ逆にしているケースがあるのではないかと。制度はいいのですよ。使われ方ですね。

例えば、トヨタ自動車も、2年現場から離れちゃうと、そこに戻っても仕事にはならない。これが1ヶ月、2ヶ月だったら、これは普通に戻れる。そういう体制がなかなかまだ出来ていない。でも、2年使うか、1ヶ月で戻るか、2ヶ月で戻るかというのは選択じゃないと言われるのだけど、職場なんかで皆さん2年使われると自分だけ2ヶ月で戻るというわけにいかないというようなことがあったりして、使われ方の問題もいろいろあるようでありましてけれども、私は子どもの生まれるまちを作るといような表現をしています。

それから、今、副市長がおっしゃった、子育てが苦労だという、この点がね、おっしゃるとおり非常に重要なポイントなのです。飯尾さんお帰りになられたから批判しづらいのだけど、マスコミは子どもを作れば、子育て支援の位置づけとしてどういうふうな位置づけがされるかということ、子どもを作れば家計的にも苦しくなります、教育ローンかかります、お母さんは仕事に復帰できないかもしれない、やりたくても我慢しなきゃいけないかもしれない、場合によっては孤独でノイローゼになったりします、おばあちゃんはいません、だから行政は子育て支援するのだ、というスタンスでお書きになるのですよね。これだったら、やっぱり作るのをやめようかと思われる方、いると思うのだけど。子育てというのは、子どもを作るというのは、何事にも増して嬉しいことで、それへの投資というのは、これは本当にいい投資なのだ、だからそれを実現するための子育て支援なのだ、という書き方をしていただけるとまた違うのだけど。というようなことも感じております。

どうぞご発言ください。お願いします。どうぞ。

【矢羽々委員】

すみません。2点ほど申し上げたいと思います。

行財政運営ということですが、非常に愚問だと思うのですが、私ども一般の方から見ますと、各会社なんかは利益を生み出してから給料をいただいたりして、いろいろなお金を使ったりするのですが、公務員さんというのか、行財政においては初めに予算の振り分けがありますね。各課に配分されて使っていくのですが、この予算というのは例えば残して頑張るとか、一応目標は今年度、27年度はすべて行事を達成して、うちの課は1割残したとかいうことは評価されないのでしょうか。

例えば、残るようだったら初めの予算の取り方が悪いから残ってしまう、という考え方なのか。例えば、これだけいろいろな審議会でご意見伺っていると、いろいろな意見が出て、いろんな所に思わぬ出費がこれから出てくる時代に入っているのじゃないかと思うのですけれども、そういう部分でも少しでも貯えるというか、基金にするとか、そういうふうな考え方というのは公務員では導入をしてはいけないものなのか。私の常々思っている、素朴な意見なのですね。

残すとちょっとあれだから、例えば子どもの旗でも買って、置いておこうということになってしまうのですけど、そうではなくて、流用性のあるお金として、基金として持つことが可能なのかどうか。本当に愚問かもしれませんが、素朴な質問です。

あと1つは、財政の使われ方で見える化というのか、市民が見える、「そうだったんだ」という。例えば、ごみの減量30%と安城がしてきましたけれども、減量したらどうなったのか、その浮いたおカネはどこに、どのように使われたのか。市民一人一人はごみ出し、うちは前2つ出していたけど1つにしよう頑張ったのだけれども、じゃあ燃料費が浮くためにやっていると思うのですけれども、「こうなって皆さんのおかげで」と年度末に、例えばごみ袋一つでも戻ってくるとか、市民が実感できる。

あるパーセンテージまでは伸びたけど、そこからなかなか伸びない。この伸びないところに、市民が体験してないというか、出した結果どうなっているのか、という。数字だけは聞いています。だけどそれ以上は、環境ボランティアなさっている方たちも「もう一息なのだけだな」と言われるのだけれども、例えば、その間に大手のスーパーですと、スーパーの独自に備えると、若い人たちはポイント制度が好きですから、ポイントの方に出すようになってしまう。完全に見える化ですよ。あなたのごみ協力は今、何ポイントです」と、「幾らに代わります」と。ところが、同じスーパーの敷地内にある反対の方の市役所の方へ出すと何も無い。置いてくるだけということだと、ちょっと市民が意識できない。「行政で頑張ったらこうなったのね」というような、メリハリのあるおカネの使い方という変なのですけれども、一方は「協力してもらったからこうなったよ」というのがあるといいのではないかと、仲間と話したことがあります。

ちょっと、相反する2つの意見で恐縮なのですが、以上です。

【座長】

2点ございますが、予算を残すことの評価、それから見える化の醍醐味でありました。どうぞお願いします。

【総務部長】

予算が残ったら評価するかということでございますが、もともとですね、当初予算を編成する中で残るような予算を付けていないというのが大前提の中で、結果として

いろいろな創意工夫の中で予算が不執行になった場合については、3月で予算の減額の補正というのを形にさせていただきます。それが、よくやったということではなくて、その中でいろいろな事業の取り組みの中で、創意工夫をした中で予算を残していただいた。その残った金額についての使途につきましては、今おっしゃられたように将来、例えば中心市街地の図書館だとか、清掃施設の建設だとか、小中学校の改修だとか、そういったそれぞれの基金というのを持っておりまして、その基金に将来に備えて、残ったおカネを貯金するというような形で処理をさせていただいております。ただ、今おっしゃったように、それがどうなったかということにつきましてはホームページに、それぞれの事業について事務事業というので、こういった事業は総合計画にどういうふうに位置づけられておいて、市長のマニフェストになっているかどうか、その事業についての目的は何なのか、具体的に何をやっておいて、どういった成果を求めているのか、その1年やった結果についてはどうだったということで、その評価も含めてホームページに事務事業の評価というのをしております。一度それを見ていただくと、市としての取り組みはどうだったんだ、あるいは市民の人としての協力はどうだったということが、反省も踏まえて書いてありますので、それはそれとして、見える化といいますか、市民の皆さんにぜひ見ていただきたいというような形で思っています。今おっしゃられたようにちょっと行政はPR不足なところがございまして、民間と違ってPRにあまりお金をかけてないものですから、いかに市民の皆さんに協力をさせていただいて、その協力をさせていただいた方に対してのインセンティブを持っていたらいい、それに対するお礼とか満足感をどういうふうに与えるかというのは、それぞれの事業によっていろいろ違うかと思えます。特に今おっしゃったごみ減量のポイント制だとか、環境についてはポイント制が環境についてはあるのですが、ただ、ごみ減量に限ってどうこうというのは細かく分からないのですが、ご指摘いただいたように何か市民の皆さんのインセンティブあるいは達成感といいますか、そういったものも含めて、どういった事業の取り組みであるかということについては、ご指摘を踏まえて全庁で一度考えていきたいと思っております。以上です。

【座長】

ありがとうございました。予算を残すこと、私は以前、教育職の国家公務員を長くしておりまして、今の大学に移ったとき、カルチャーショックだったです。予算を残すなんていうと、国民の血税を何と心得るか、むだな計画を作るなど、カンカンに怒られるのです。だから、2月、3月になると一生懸命出張して消化している仕儀になるのですけどね。中京大学に移ってから、カネを十分にもらっているわけじゃないけど、残るのが当たり前。大体、学部で予算が回ってくるのだけれども、1割は残りますね。残したものは返せばいいだけで。ただ、だから節約しようかというインセンティブがあるかということとこれがまたないのですけれども。まあまあ、何というか、楽に使っているという感じがありましてですね。全然考え方が違うのですね。節約するなん

ていうのは、それだったら初めから計画に入れろということが強いです。ありがとうございました。

【中根委員】

先ほどの子育て支援の話もあるのですが、教育費については高校生にも生活水準に合わせて支援もしていただいていますし、とても子育てしやすい環境にあると思います。大学に関してさすがに援助はないので、そのところは頑張っただけがなきゃなど、どの母親もそんなこと言っています。

子育てというか、女性にとっては気になる場所としては、3ページの「結婚・出産・子育て・教育の切れ目の無い支援～生涯のライフプランを描けるまちになる～」という所の一番下の「雇用・就労支援・女性の働き場所・仕事と家庭の両立が実現可能な労働環境を創出」という、働き方のところがすごくこれからは大事なのかなと思います。

安城は、男性が働く場所がたくさんあるので、女性は家庭に入ればいいのかというふうに思っている人が確かに多いのですが、女性の非正規雇用が多いということもあって、一人親家庭や、一人で子ども育てる人にとってはとても大変だろうと思いますし、働いて結婚・出産で仕事を辞める方が多いのですが、そうすると、その後の働き方にも影響して、先ほど、育児休暇でしばらく休むとその後に影響するとおっしゃったように、女性もやっぱり、その後結局、出産した後、非正規雇用になる方がたくさんいらっしゃって、そこで男性と差が付くことにとっても生き甲斐というか、やり甲斐というか、そういうのを持ってない女性もたくさんいるので、いろいろな働き方があっていいとは思いますが、女性も働きやすい環境を作っていくというのは、この安城市においても力を入れていただけるとありがたいなと思っています。ワークライフバランスの普及、推進というのも、男性が一生懸命働いてくれているので、なかなか女性としては言いにくい部分もあって、進みにくいところではあるのですが、そこら辺の女性の働き方というところをどのように考えていらっしゃるのか。問題点とかそういうこともお聞きしてみたいなと思います。

【座長】

ありがとうございました。どなたかお答えいただけますか。

【子育て健康部長】

答えになるかどうか分かりませんが、お母さんの置かれている立場というのは、子どもさんが出来ますと引き続き働き続けるのか、その場合には保育園に預けるしかない。そんなようなことで、なかなか。本来はいろんな働き方とか選択肢が複数いろいろあれば選択の幅も広がるのでしようけれども、やはりまだまだ、子育てというのは女性の仕事なのだというのがやっぱり前提にあるのではないかなというふうに

思います。

そんなことから、なかなか選択肢が広がっていかないというような状況があるのではないのかと。さっき育児休業とかいう問題ありましたがけれども、例えば自宅にいてもそれなりの所得保証が国からあるのかというと、そうではないというようなことがありますから、そういった意味でもう少し選択肢が広がっていくと本来はいいのではないかなと思う。それぞれの自治体だけの力でというとなかなか限界もあるというような、そんな状況にあるのではないかなということを私は思っております。

【座長】

ありがとうございました。中根さんおっしゃったように、1つは働きやすい場所を作る、まちを作るということ。それからもう1つは、女性が働きたいと思うまちを作る。この働きたいと思うまちを作るというのが、全国的に非常に大きな問題。若い女性だけではありません、これは東京一極集中といいますけれども、東京への流入というのは1970年代をピークにだんだん減っていつているのですよね。波は描きますけれどね。ただ、出ていかないものだから増えている。そういう中で、若い人の流入はずっと続くのです。その中でも特に若い女性の流入はずっと続いておりまして、愛知県がやっとトントンくらいなのではないでしょうか。岐阜、三重の方たちはなかなか名古屋近辺にとどまらなくて、そのまま東京に行かれる、いったん行かれたら戻ってこない。これは何が原因なのか。本当の話、イメージもあって、名古屋駅の前のオフィスで働くのだったら、東京生まれの東京育ちで東京の大学出た女子学生が来たい。だけど、安城で言うのも何だけど、安城市で働くのであればちょっと考えるとかね、いろいろなようなことがあるのだと思うのですね。ちょっとしたことでね。その辺のことも大事なのかな。

神谷委員、ここは行財政運営でありまして、予算委員会みたいなものだから、幅広で結構でございます。

【神谷（金）委員】

安城市の財政力指数はいくつですか。去年、次の予想。

【総務部長】

財政力指数は平成26年度が1.25でございます。全国で790くらい市があるのですが、全国で7位でございます。

【神谷（金）委員】

来年の見通しはどうか。

【総務部長】

平成27年度は今、速報値ですが、もう少し上がりそうです。

【神谷（金）委員】

奥野先生も、安城市は素晴らしい数字でということによっておられましたけど、800市余あって、1.25というのは125%ということですよ。税金が。ですから、予算で余ったらどうなるかという話を矢羽々委員がおっしゃったけど、私も20年間、市役所でお世話になりました。一生懸命に工場誘致を最初やりました。今は明治用水で土地を守る仕事に一生懸命になっております。

都築弥厚が何としても明治用水を開くに当たって求めたのは、1,400町歩、14,000町歩ですか、それは豊田の方まで入ってございました。結果的には水源町という所へ用水を開いて、最高が10,000町歩であります。昭和33年が9,000町歩、今が5,500です。

財政力指数がなぜいいかということは、やっぱりトヨタさんの影響でして、トヨタ関連企業、織機、アイシン、AW等々の工場誘致に、非常に農地が多く買収されたということもあります。もちろん、公共の道路とか民間の住宅とかいろいろありますが。そうした力で、この西三河、知事さんの話を聞くと23兆円の工業出荷額、全国第2位の神奈川県が18兆円とか言っておられたけど、愛知県は名古屋の20兆円を入れますと四十数兆円だと思います。

いずれにしても、そういう環境の中で、災害もなく暮らせる地域、特に安城は国道1号、23号、そして第2東名もちろん、非常に交通のメッカでありますので、どうしても目がそちらに注ぐわけですけども、そういう大型企業の場合は非常に力をもってやられますので、広く理想の所へ構えられるわけですね。ですから、これはしばらくまだ続くと思いますけど、今日お集まりの女性の皆さん、市外からご縁があって安城にみえた人も中にはあるかと思いますが、非常にそういう意味で、日本の地図を天気予報なんか見ておりましたも、関東平野が一番広くて、それから愛知県ですけども、愛知県の尾張から西はゼロメートル地帯です。よく大村知事が嘆かれるわけです。ポンプを、排水ポンプですね、大型のを200台準備して、常時。全部が常時じゃないですけど、排水をしておらんと。これは津島から南へかけまして、伊勢湾台風のとき白海でした。私はボランティアで行きまして知ったのですが。そういう環境であります。ですから、この西三河、とりわけ安城は、まだ伸び代があるかと思っておりますので、土地は有効に使っていただきながら、一方的に泣く人がないように。

そんな中で、交通計画の方ですけども、私は新幹線にもよく乗っていますけれども、ああいう県道同士の交差点がどうしても右折帯がまだないですよ。この前もちょっと言ったと思うのですが。私が、当時は町内会長さんを中心に、集落の評議員さんとかみんなと一緒に陳情する十字路、交差点にするようなことに動い

やおれんというような雰囲気だろうと思いますが。岡崎行く名鉄のガードの下も依然として2車線がぎりぎりなのですよね。ああいう所の主立った交通渋滞をなくするには、北明治の手前の交差点にしても、右折帯をぜひ早く持ってもらおう。財政力をバックにして、一つずつ一つずつ計画していただきたいなと思います。

それから、デンパークは当時、岩月市長は全然そんなものは作らんよと言っておられたのですけれども、議員提案で、今からやっていくという若い市会議員さんの声で、音頭はあまり取ったことはないのですが、止めた方ですけれども、近況というのですかね、財政状況、あるいは集客力、あるいは新規事業、デンパークの関連で何か今の3項目でありましたらお願いしたいと思います。

それから、衣浦東部のごみ処理のことも載っておりますが、やはり市長さんの前までは5市合併の話も相当賑やかだったのですが、最近は音なしの定着のような雰囲気です。ですから、5市統合した処理施設を作るのかなというようなことで地元としても、渋々あそこへ屎尿とごみを作っていたわけですけれども、広域ごみ対策で何か新しい将来の展望のようなもの、あったら教えていただきたい。こんなことを思っております。直接、今それで迷惑を被っているということではありませんけれどもね、総合計画の中で、そういう部署の中でも話が出ているのかどうか。そんな3点。

【座長】

それでは、最初に道路の問題、それからデンパーク、それからごみ処理施設の問題。担当の方でお願いいたします。

【企画部長】

ご質問いただきました直接の担当部長が同席しておりませんので、私の方からお答えできる、まず、交差点改良とごみの問題についてお答えします。

交差点改良は、ご指摘いただきましたように、交通渋滞の大きな要因となっております。安城市でございますので、市道の交差点改良につきましては毎年、多くの所が一斉に改修できかねておりますが、毎年1つずつくらいでも用地買収をして、右折車線を整備しまして、交通渋滞の緩和に努めておるところでございます。

それと、広域行政、とりわけごみの問題でございます。碧海5市の中ではグループがございまして、知立と刈谷さんは一部事務組合でごみ処理をされています。また、高浜と碧南市さんも一部事務組合をもちましてやっております。そこに本市も入りまして3市で、将来のそれぞれのごみ焼却施設が今後、老朽化を迎えますので、どのように整備していくか、共同でやれることはないかというような議論を重ねておるところでございまして、まだ最終的な結論には至っておりませんが、ただ、担当部局から聞こえてきますのは、意識は非常に高く共通しておるところですが、それぞれの課題もあるようでございまして、その課題が整理できれば共同運営という可能性も見えてまいります。またそこに至るところに大きな課題もあるやと聞いておりまして、も

う少し先を見なければならぬと思っております。

【副市長】

デンパークの関係は、担当の分野でございます私の方からお答えをさせていただきます。

デンパークの15周年を機にひとつ、今、北エリアの所を市民農園から散歩道を中心とした「白の花木園」という形で、大きな改造をいたします。再来年が20周年になりますので、完成するというのはちょっと今のタイミングでは難しいのですが、記念した大きな改造というか、それを少しやれないかということは今、デンパーク側、それから担当部局で検討しております。

今年の4月に新しく常務理事を織機の方から迎えましたので、その常務理事の意見も入れながら、今、詰めているところですが、場所としては、風車が置いてあります、あの辺りがだいぶ遊具も傷んできたということで、その遊具の更新も含めてどうすべきか、ということは今、詰めているところです。

【座長】

ありがとうございました。大体20年経つと、どうしても大規模修繕が必要になってまいりますね。ありがとうございました。

まだあるかと思いますが、時間が来ておりますので、今日は以上にさせていただきます。

今日のご意見等々、素案の完成に活かしていただければと思います。

ありがとうございました。お返しいたします。

【事務局】

どうもありがとうございます。

事務局よりご連絡をいたします。

今回は、10月23日午前10時からの開催となります。お忙しいところ恐縮でございますが、ご予約をくださるようお願いをいたします。

【司会】

以上をもちまして安城市総合計画審議会第2分科会を終了します。

長時間にわたるご審議ありがとうございました。